

哲學研究

第四十三卷 第十一冊

第五百五號

昭和四十二年五月一日發行

存在と知識—佛教哲學諸派の論争—(二)

經量部の根本的立場……………梶 山 雄 一

ヘーゲルの精神現象學、及びそれ以前の

諸書に於ける「生と死の戦い」の思想に

ついて(承前完)……………ヴァン・ブラフト

デカルト哲學の立場……………森 啓

書評 腦と電子計算機(前篇)……………三 谷 惠 一

— F. G. George 著: The Brain as a Computer に就いて —

京 都 大 學 文 學 部 内
京 都 哲 學 會

京都哲學會規約

- 一、本會は廣義における哲學の研究とその普及を圖ることを目的とする
- 一、右の目的のために左の事業を行う
 - (一) 毎月一回會誌「哲學研究」を發行する
 - (二) 毎年公開講演會を開く
 - (三) 隨時研究會を開く
- 一、本會の事業を遂行するために委員若干名をおく
委員は京都大學文學部哲學科教官及び委員會において推薦したものに委嘱する
- 一、本會に賛助員若干名をおく 賛助員は會員の中から委員會が推薦する
- 一、本會は會員組織とし會員には資格の制限を設けない 學校・圖書館・其他の團體は團體の名を以て入會することができる
- 一、會員は會費として年二、四〇〇圓（會誌十二冊分を含む）を前納する
- 但し 二回又は三回に分納することもできる
- 一、會員は會誌の配布を受け會誌に豫告する諸種の行事に出席することができる
- 一、本會は事務所を京都大學文學部内におく
- 一、規約の改正は委員會の決定による

京都哲學會役員

委員

湯山森本武松藤服蓮野長中辻武園重神梶柿上井井石池
 淺田 吉藤尾澤部實田尾 村内原澤 野山崎野 田
 美 久 慧 上島田
 幸 都 良一義令正重又雅 公義太俊 一雄祐照 義
 孫晶男治雄海夫明康夫人郎一範郎郎郎一一夫俊勉仁祐

について深い反省を欠くならば、意外に浅薄なものになりおわるのである。一方であくまでも理性そのものに足場を据えるかたわら、しかも片足は、もはや理性をはみ出したこととときに突っ込んでしまっているという、そういう双方に跨ったようなところで展開される思索でないかぎり、現在の私には興味をもちえないのである。デカルト哲学のうちに含まれる個々の問題については、改めて考えてみたい。

(1) 若干の言及は窺える。しかし、もとより深刻な問題とはなりえない。『短論文』二部二十五章、『知性改善論』七十九節を参照。

(2) Cf. K. Mahler: Die Entstehung des Irrtums bei Descartes und bei Spinoza, S. 19-20.

(筆者 京都大学文学部〔哲学〕研修員)

次 号 論 文 予 告

好奇動因と撰択行動……………本吉良治

社会的事実と行為……………中久郎

——デュルケム理論の検討——

カントの神存在論証について……………春名純人

——特に批判前期の「唯一の証明根拠」(一七六三年)を中心とする——

前 号 目 次

自然と人為……………森三樹三郎

悪における自然の意味……………吉田忠勝

——シェリングをめぐる自然の概念(一)——

空間視知覚の方法論的検討……………池田進

——大きさの恒常的現象に関連して——

會 告

一、本會は會員組織とし會員には資格の制限を設けま

せん、入會希望の方は京都市左京區吉田京都大學文

學部内京都哲學會（振替口座京都四〇三九番 京都

哲學會）宛に規定の會費（年二、四〇〇圓又は半年

一、二〇〇圓）をお拂込下さい

又會員への會誌送付、バックナンバ―購入及び發賣

に關する一切は東京都千代田區北の丸公園一番一號

創文社（振替口座東京九二四七二番）宛に願います

一、會費切れの場合は封筒に「前金切」の印を捺しま

すから直ちに京都哲學會宛御拂込下さい（一年分又

は半年分）、會費は原則として本誌十二冊（又は六

冊）の送付済を以て前金切れとし、會費の變更其他

の事情による過不足は一年（又は半年）毎に清算し

ます

一、會員の轉居・入退會の事務及び編集事務の一切は

京都哲學會宛に御通知下さい

一、本誌の編集に關する通信・新刊書・寄贈雜誌等は

本會宛にお送り下さい

京 都 哲 學 會

京都市左京區吉田
京都大學文學部内

昭和四十二年四月二十五日印刷
昭和四十二年五月 一 日發行

編 集 人 京 都 哲 學 會

京 都 大 學 文 學 部 内
編 集 代 表

神 野 慧 一 郎

久 保 井 理 津 男

堀 内 文 治 郎

堀 内 印 刷 所

東 京 都 神 田 三 崎 町 二 ノ 一 六

發 行 人

印 刷 人

印 刷 所

發 行 所 會 社 式

創 文 社

東 京 都 千 代 田 區 北 の 丸 公 園 一 一 一
振 替 口 座 東 京 九 二 四 七 二 番
電 話 丸 ノ 内 四 〇 〇 八 番

註 文 規 定

一、會員以外の購讀者の御注文及び廣告掲載に關する
件は「創文社」へ御申込下さい

一、本誌の御注文はすべて代金送料共（一部、定價二
五〇圓、送料・四〇圓）前金にてお送り下さい

昭和四十二年四月十五日印刷
（每月一回發行）

THE JOURNAL
OF
PHILOSOPHICAL STUDIES
THE TETSUGAKU KENKYU

Vol. XLIII

May, 1967

No. 11

Buddhist Philosophical Schools on the Problem of

Existence and Knowledge — Chapter II :

SautrāntikaYuichi Kajiyama

The Life and Death Struggle in Hegel's

Early Writings.....Jan Van Bragt

The Standpoint of the Cartesian PhilosophyAkira Mori

Book Review

F. M. George : The Brain as a Computer (K. Mitani) (*Part I*)

Published Monthly

by

THE KYOTO PHILOSOPHICAL SOCIETY

(The Kyoto Tetsugaku-Kai)

Kyoto University

Kyoto, Japan

定價
二五〇圓

IBM 6427